

JOYAMA NEWS

University of Teacher Education Fukuoka
Campus Magazine

vol. **45**

2019 Summer

Joyama 通信
福岡教育大学広報誌

特集

私たちの 福教大キャンパスライフ!

福岡教育大学



国立大学法人

福岡教育大学

創立 **70** 周年

福岡教育大学は2019年に
創立70周年を迎えます



特集

私たちの 福教大 キャンパスライフ!

先生になりたい! その思いを胸に福岡教育大学へ入学し、日々夢に向かって自分を磨き続けている福教大生—。「教員」という目標は同じでも、その道筋の歩き方、キャンパスライフは十人十色。スポーツ系・文化系の部活動を通じた仲間づくりや感動体験、地域小学校での学習支援ボランティア活動、ときには海外インターンシップ研修制度を使って未知の世界へ飛び出すことも。知りたい! 経験したい! という自由な好奇心、自己成長への強い向上心を福教大は応援しています。学生生活で得た経験は、必ず、教壇に立つあなたの力になるはずだから。今回は、現役福教大生5人のリアルなキャンパスライフをご紹介します!

CONTENTS

vol.

45

02 特集

私たちの福教大キャンパスライフ!

08 教員紹介

& 学生から見た先生の魅力について

09 福教大NEWS

12 サークル紹介

卓球部

Seasoning (シーズニング)

13 第22回 福教大卒OB&OG紹介

志免町立志免中央小学校主幹教諭
大坪 さつきさん

14 TOPICS

健康増進法改正に伴う
学内全面禁煙の実施について

表紙モデルの福教大生

福岡教育大学基金のご案内

15 キャンパスからの便り

海外研修で言葉を越えた「通じ合い」を実感。 特別支援の子供たちとの交流のヒントに。

——1年生の頃、福教大が実施する「カンボジア インターンシップ・ボランティア研修」に参加したそうですが、どんな経験でしたか？

この研修が私にとって初めての海外でした。孤児院でのボランティア活動や現地学校の訪問、地雷被害にあわれた方にお話を伺う機会もあり、言葉を越えた交流がたくさんありました。13日間の滞在中、特に印象的だったのは孤児院での交流です。5歳から14～15歳まで10人くらいの子供たちと1週間、朝から晩まで時間を共にして。言葉が全く通じないのに、一緒にいると「ボールちょうだいよ！って言うてるな。あの子はちょっと拗ねてるな」と気持ちが汲み取れるようになるんです。勉強熱心な子も多くて、ノートを出す日本語を書いてとせがまれたり、代わりに現地の言葉を私たちに教えてくれたり本当に可愛かった。もともと英語が苦手なんですけど、相手が外国人でもやっぱり人と人。コミュニケーションツールは言語だけじゃないなと実感しました。私は特別支援教育に関心があり、知的障害のある子供たちと交流する中でもコミュニケーションについて考えることがあります。カンボジアで経験した「相手と気持ちを通じ合わせる方法は言葉だけじゃない」という実感は、そうした活動においても支えになる経験になりました。

——特別支援教育にはいつ頃から関心を持ちましたか？

子供の頃から家の本棚には、手話の絵本や目の不自由なおじさんが登場する絵本などがありました。また、小学生の頃、私のクラスには、車いすに乗った友だちや、算数の時間だけ違う部屋に行く友だちがいました。特別支援教育に関心を持ったのは、進路を決める高校生の時です。その時に特別支援教育と、今まで私が出会っていた友だちや絵本の中のおじさんが結びつき、特別支援教育を専門的に勉強したいなと思い、いまの課程を選びました。福教大に入って、いろいろなボランティアに参加しましたが、同じ子供でも、昨日と今日、去年と今年では大きな変化があり、常に子供の成長や可能性に驚かされています。子供の「やってみたい！」という思いに、「どんなふうに支援したらいいかな～」と考え、子供と一緒にトライするという繰り返しが、私の特別支援教育を学ぶモチベーションになっています。

——将来、どんな先生になりたいですか？

子どもたちを支える場所は必ずしも学校に限らないんじゃないかという気持ちもあり、今は福祉関係も含めて進路の視野を広げています。教壇と机みたいな向かい合う関係だけではなく、一緒に遊んだり、畑で土をいじったり、子どもたちの横に並んで学んでいける先生になりたいです。

しげ なぎさ

重汀さん

特別支援教育教員養成課程
初等教育部3年



現地の子供たちとのコミュニケーションノート



準硬式野球部は 今春12年ぶりの快挙を達成。 キャプテンとして「チームに感謝！」

——準硬式野球部でキャプテンを務めた中島さん。部活動は練習や大会など時間的な拘束もありますが、なぜ部活をしようと思いましたか？

僕は小学校で野球を始めて中学・高校も野球部でした。特に高校時代は、夏の甲子園（全国高校野球選手権大会）を目指して野球漬けの毎日でしたが、大会出場は叶わず…。勝つことへのプレッシャーやキャプテンとしての責任も重く、野球を純粋に楽しめなくなっていました。だから、野球はもういいと思っていたんです。それが、たまたま準硬式野球部のノック練習に入れてもらったら、すごく楽しくて。あれほど「野球はもういい」と思っていたはずなのに、気がついたら入部していました(笑)。

——大学の部活動は高校時代とどういうところが違いましたか？

大きな違いは運営だと思います。高校の部活動では部員はプレイヤーに徹して、部活の運営は顧問の先生や学外の監督やコーチがしてくれますが、大学では練習グラウンドや試合の手配、練習メニューの作成も全て自分たちで行います。また、個人的には硬式野球から“準硬式”に移ったのも大きかった。高校時代は硬式の強いチームだったこともあり、周りから一目置かれて何かと優遇されていました。それに比べれば準硬式野球はマイナーなスポーツ。グラウンドの利用ひとつも自分から動かなければ何も始まりません。他の部を相手に、どう話せばうまく話をまとめられるか、考えながら交渉し自発的に動くことは良い経験になりました。

——成績では、今年12年ぶりに清瀬杯（全日本大学準硬式野球選手権大会）進出の快挙を遂げました。キャプテンとしていかがですか？

実はこの大会のひとつ前に開催されたリーグ戦は最下位だったんです。僕らの代は野球経験者が多く期待されていたんですが、技術力が裏目になり、練習は休んで試合だけ出るような気の緩みがありました。そのうち勝てる練習試合も落とすようになり、ついには大事なリーグ戦で最下位に。入部以来、最悪の成績を残してしまったことが心底情けなく、悔しかった。「俺はこのまま終わりたい」と本音をぶつけましたが、皆も同じ気持ちだったと思います。それから練習態度が一変しました。結果として全国大会の出場権を得たのも最高ですが、同級生部員と本気で野球に打ち込めたこと、また、ダメな先輩の僕らを最後まで立ててくれた3年生、後輩たちには感謝しかありません。9月の本戦も皆で全力で戦います！

——福教大を目指す高校生にも部活動をおすすめしますか？

僕は好きな野球を選びましたが、部活動じゃなくても良いと思います。授業以外に夢中になれること、それを通して新しいことを経験したり仲間ができれば大学生活もより充実するのではないのでしょうか。教員を目指すうえでも、きっとプラスになると僕は思っています。

なかしま りょう た ろう

中島 遼太郎さん

初等教育教員養成課程4年



高校から愛用しているグラブと
大切にしているグローブ



子どもたちの「分かった!」がうれしい。 学習支援ボランティアで知る 先生方の舞台裏。

—高校は理系専攻で医療関係を目指した時期もあったという松田さん。
最終的に教員を志した背景にはどんな思いがあったのでしょうか？

人にものを教えているとき、丁寧に教えているつもりなのに「分からない」と言われると、「なんで分からないんだ!」とだんだんイライラしてくる。そういう気持ちが全くないわけではありませんが、それ以上に「どう説明すれば分かってもらえるんだろう」と教え方を考えたり工夫することに興味を感じている自分に気がついたんです。実際、学習支援のボランティア先でも面白いことがたくさん起こります。算数の例題が「本が12冊ありました」だと「分からない」と諦めてしまう子に、「ケーキが12個あってね…」と例題を好きなものに置き換えると急に顔つきを変えたり、視覚的に捉えるのが得意な子には「〇を12個書いてみようか」と図形を描きながら解いていくと、ちゃんと答えまでたどりつける。よく先生方が「子どもの“分からない”が“分かった!”に変わるのがいちばんの喜び」と仰いますが本当にそう。教えている僕もとても嬉しくなります。

—学習支援ボランティアではどんな活動をしていますか？

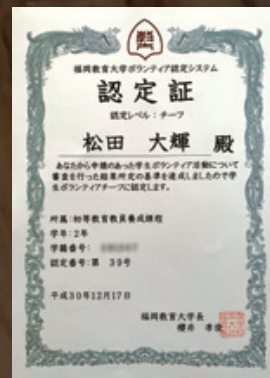
授業中に補助が必要な子に付いて勉強を教えたり、先生方のお手伝いをしたり。入学当初、先輩から「学校現場は見るのと聞くのでは全然違う。子どもたちはもちろん、先生方の苦勞も喜びも肌で感じられるよ」と言われて、自分も行ってみようと思いました。実際、先生の仕事量は想像以上で、子どもと接していない時間も、テストの採点や授業準備、ノート、宿題の点検、加えて学内・学外での役割もあります。でも、大変だからこそ教師間の協力が日常的で、例えば配布物は必ず他クラスの方までまとめて印刷したり、いつもお互い気にかけている。僕は4つの小・中学校で活動しましたが、そうした協力体制はどの学校にも共通していました。先生という仕事の楽しさは、そんな助け合いの中にもあるのかなと思います。

—松田さんは小学校教員に加えて、中学校の社会科、中・高校の理科一種の免許取得も目指しています。どんな将来像を描いていますか？

僕は「教えること」に興味があるので、将来の道を小学校の先生だけに決め込まなくても良いと考えています。体力的な限界を感じて小学校を引退した後、私立の中・高校で教科担任をする道があるかもしれないし、理科の免許があればボランティアで地域の小学生に実験教室を開くこともできるかもしれない。教育現場も公立の小中一貫校ができたり、小学校5・6年の教科担任制が検討されるなど変わり始めています。今は福教大という恵まれた環境で学べるだけ学びたい。限りある時間のなかで、知りたいことをできるだけ多く吸収するため、効率よく活動し、4年間という短い学生生活を思いっきり満喫していきたいです。

まつ だ たい き
松田 大輝さん

初等教育教員養成課程3年



学生ボランティア活動に基づき
認定された認定証（チーフ）

高校時代に憧れた 福教大吹奏楽部へ入部。 部活を通して築く 仲間のつながりも楽しい！

——中学、高校と吹奏楽部に所属し、現在は福教大吹奏楽部で部長を務めている大江さん。吹奏楽部ではどんな活動をしていますか？

吹奏楽コンクールや定期演奏会といった大きなステージに加えて、小学校での訪問演奏会、福教大の卒業式でも演奏を披露しています。普段の活動は皆で集まる全体練習が週4～5回、そのほか空いた時間を使って各自が個人練習をするかたちです。私が高校生の頃、福教大の吹奏楽部は九州大会で金賞をとるほど強くて、「福教大に合格できたら私も吹奏楽部に入ろう!」と心に決めていました。大学の部活動は顧問の先生こそおられますが、運営は3年生の幹部部員を中心に学生で行います。会場との打ち合わせはもちろん、演奏会の内容や構成を考え、練習を指導するのも学生部員。さらに、福教大は伝統として指揮も学生が担当します。吹奏楽は指揮者の力量で全体の演奏がガラリと変わるものです。歴代の先輩方を含めて「この人の音楽についていきたい!」と思わせてくれる学生指揮の存在も福教大吹奏楽部の誇りだと思っています。

——大江さんは今年の福教大卒業式で初めて運営を担当されたそうですが、ひとつのイベントを仕切ってみてどうでしたか？

なかなか大変でした(笑)。イベントはたくさんの方が関わるので、こまめな連絡と情報共有が欠かせません。部外では大学の学生支援課と連絡を密にして、部内では部員の動きやその裏で動く幹部部員の動きまで考えて。卒業式演奏は同学年の子と2人で担当しましたが、最後は家に泊まり込んで段取りを詰めていきました。その経験を経て幹部部員になり、改めてコミュニケーションや話すことの大切さを感じています。1人の意見で決めてしまえば簡単ですが、演奏会やイベントはやっぱり皆でつくりたい。そのためには一人ひとりの意見にきちんと耳を傾けて、すり合わせていく過程をおろそかにはできないなと思っています。そういうやり取りを通して生まれる部員同士のつながりも部活の楽しさのひとつです。

——勉強の面では3年生は教育実習がひとつの山場になります。これまでの大学生活を通して、自分の将来をどんなふうに描いていますか？

高校生の頃、小学校でお世話になった先生が海外の学校へ赴任することになり同級生で先生の送別会を開いたことがありました。かつての教え子たちに囲まれている先生を見て、「先生ってこういう職業なんだ。素敵だな…」と思い、福教大に進学を決めました。実際、体験実習などで子供たちに接してみると、やっぱりすごく可愛い。でも反面、教育の現場を知れば知るほど「私に務まるかな…」という不安が大きくなっているのも正直な気持ちです。今は本実習も含めて、残りの大学生活でいろんな可能性を考えながら、自分の将来を見極めていきたいと思っています。

おお え

大江ひとみさん

初等教育教員養成課程3年

【ある1日のスケジュール】

- 7:00… 起床。前日に学食で購入したパンで朝食
- 8:40… 1限目の授業
- 12:00… 友達と学食でランチ
- 12:45… 授業
- 空いた時間を使ってクラリネットの個人練習
- 18:00… 吹奏楽部の練習
- 部活がない日はアルバイト
- 21:00… 部活終了



大学生活を共に過ごしている
クラリネット

実習にボランティア、現場での経験を糧に 憧れの恩師のような先生になりたい。

——高校時代、地元の総合大学と福教大で進路に悩んだという上領さん。どういうところで福教大への進学を決意しましたか？

最大の理由は「教育大学」の魅力でした。周りがみんな教師を目指している環境は、実際とても刺激的で、将来に向かって本気で努力している友だちの存在に「私も頑張ろう」と勇気づけられることが多いです。また、小学校での学習支援をはじめ、学生のボランティア活動を後押ししているのも福教大の特長だと思います。先生方のネットワークも広く、先輩方がしっかり実績を残しているので、「福教大生なら」とたくさんの学校が受け入れてくださる。私も多いときは週1～2回のペースで学習支援ボランティアに参加していました。

——上領さんは昨年、公立小学校での教育実習も経験されました。ボランティアで行く学校と教育実習とはどんなところが違いましたか？

教壇に立って授業をするのは教育実習ならではの経験でした。自分ではこれ以上ないと思うくらい準備をして臨みましたが、本番では全然思った通りにいかなくて…。道徳の授業だったんですが、予想外の意見がたくさん飛び出してきて「子供はそんなことを考えているんだ!」と逆に子供たちに教えられてしまいました(笑)。実習ではボランティア活動より長い時間、学校にいられるので様子をよく見ていましたが、多くの先生方がクラスの子供全員と1日1回しっかり話すことを心掛けておられるようでした。でも、そうすると授業だけでは足りず、授業以外で中休みや昼休みにも子供たちとふれあい、自分の仕事は後回しのなることも。「教師の仕事には線引きがない。だから自分で“今日はここまで”と決めて、どれだけ効率よく頑張れるか。全て子供たちのためだよ」と仰っていて、身が引き締まる思いでした。

——ボランティアや実習を通して学校現場を経験したからこそ、先生を目指すことに不安や迷いを感じることはありませんか？

先日もある小学校の体験実習でたくさん失敗して、今まさに自信を喪失しているところです(笑)。でも、先生になりたいと思う気持ちは変わりません。私の憧れは小学6年生のときの恩師なんですが、いつでも子供の立場に立って一緒に考えてくれる先生でした。クラスで問題が起ると、それこそ中休みも昼休みも全部私たちのために時間を使ってくれて。当時も大好きでしたが、「あのとき先生は自分の仕事を後回しにして私たちのことを真剣に考えてくれていたんだなあ」と、教員を目指し、先生という仕事の大変さが分かるようになって、改めて感謝の気持ちと尊敬の想いが増しています。私もいつか必ず、子供たちが「明日も学校に行きたい!」と思う理由のひとつになれるような先生になりたいです。

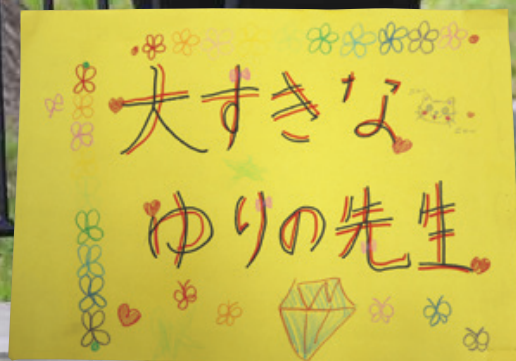
かみりょう ゆりの

上領 悠理乃さん

初等教育教員養成課程4年



教育実習の最終日に子供たちからもらった手紙



教員紹介 & 学生から見た先生の魅力について

音楽教育ユニット

教授 木村 次宏

出身地: 滋賀県
最終学歴: 広島大学大学院
教育学研究科博士課程
前期修了(後期中退)
取得学位: 教育学修士
本学着任: 1988年



多くの経験や人との 出会いを大切に

専門の研究テーマについて

私の専門分野は音楽教育学ですが、研究をはじめた頃は、音楽演奏スキル習得のメカニズムに興味があり、心理学的な側面からその問題に取り組んでいました。現在は、音楽科教育の指導法や教材研究等に関する実践的な研究を進めています。また音楽科の存在意義について、教育思想の変遷や学校教育を取り巻く現代的諸課題等を踏まえながら、理論的な考察も行っています。

大学教員に進むことになった きっかけについて

自分が音楽・音楽科教育と関わるようになったそのきっかけの一つに、小学校の時に音楽を教えていただいた先生との出会いがありました。その先生のおかげで音楽が好きになり、大学を卒業した後は中学校教員として4年間勤めました。その後、音楽科教育についてさらに勉強してみたいという思いが強くなり、大学院に進学し、研鑽を積み、今度は大学教員としてこの福岡教育大学に勤めることになりました。一昨年度までは、附属福岡中学校の校長(平成27年度～29年度)も経験させていただきました。大変なこともありましたが、自分の教員生活の中で本当に貴重な3年間でした。

研究成果の教育への還元について

これまでの自分のキャリアを生かしながら、大学と学校現場・教育委員会等との有機的な連携を図り、教員養成から現職教員の研修までを含んだ「実践知」の習得を基盤とした研究

を推進しています。また小学校・中学校の入学式・卒業式、合唱コンクール、学習発表会等での音楽活動の指導支援も学生と共に取り組ませていただいています。

こだわりの物・考え・モットー について

音楽を「教える」ということについて: 音楽は実際の音を通して考え・感じるものです。音楽科の授業においては、まずは先生自身が音楽を楽しんでいる姿を見せること、そして子どもたちと一緒に音楽を楽しむことが大切です。

福岡教育大学で学ぶ学生に一言

「学ば^くびて思わ^{あやう}ざれば則ち罔し、思^くいて学ばざれば則ち殆^{あやう}し(孔子『論語』より)」という名言が



大学での授業の様子

あります。大学では多くのことを学ぶ機会があると思いますが、人から学ぶばかりではなく、自分で考えて答えを導き出す力を身に付けることも必要です。色々な経験や人との出会いを通して多様なものの見方・考え方を働かせ、物事の本質を見極めることができる社会人になれるように頑張ってください。



出前授業(附属久留米小学校:3年生)の様子

学生から見た先生の魅力について

さかもと まゆ

坂本 茉由さん(中等教育教員養成課程 音楽専攻4年)

木村先生は、いつも私たちのことを気遣って下さる優しいお父さんのような存在です。ルーム生をはじめ、みんな何か困ったことがあったら先生のところによく相談に行きます。授業も楽しくてとても分かりやすいです。自分が教師になったら木村先生のような授業ができるになりたいです。そんな先生は、休日には山登りや散歩をして健康維持に努めていらっしゃるそうです。お体に気を付けて。これからもご指導よろしくお願いします。



木村ルーム所属の学生たち

第18回特別支援教育公開セミナー 「ドイツにおける不登校と中途退学問題の現状と課題」を開催

福岡教育大学教育総合研究所附属特別支援教育センターでは、令和元年5月21日(火)、ドイツオルデンブルグ大学ギゼラ・C. シュルツェ教授、ハインリッヒ・リッキング教授をお迎えし、「ドイツにおける不登校と中途退学問題の現状と課題」と題して、第18回特別支援教育公開セミナーを開催し、本学の学生・教職員、地域の関係者など80名が参加しました。

リッキング教授からは、ドイツの教育制度や

不登校の定義が紹介され、ドイツにおける不登校の実態について説明がありました。さらに、不登校の背景要因に加え、不登校の理由の実態調査の結果をふまえ、教授が現在想定している生徒が不登校に至る構造について紹介されました。

続いて、シュルツェ教授からは、若年介護者の問題について説明があり、祖父/祖母と孫が二人で暮らす家庭において、孫が祖父/祖母

の介護に追われる結果として不登校となる実態について動画とともに紹介がありました。

最後に、学校への出席や参加を促す教師のアプローチについて、リッキング教授から説明がありました。

限られた時間の中でもたくさんの質問があり、閉会後も会場では両教授と参加者との意見交換がしばらく続き、充実したセミナーとなりました。



ハインリッヒ・リッキング教授による講演



ギゼラ・C. シュルツェ教授による講演

ミャンマーでの 海外インターンシップ研修

本学初のミャンマー連邦共和国での海外インターンシップ研修に、7名(3年生5名、2年生2名)の学生が参加しました。

参加学生は、2019年3月8日から約2週間、ヤンゴン市内のインターナショナルスクールにて、授業参観、児童生徒との交流等を体験し、グループ毎に模擬授業を実施しました。この学校は児童生徒及び教員も多国籍で多言語教育を実施しており、本学の卒業生も教員として勤務しています。参加学生からは、「今回出会った多国籍の教員・児童生徒、他国からの研修生、現地の方々、現地で活躍する本学の先輩など様々な人とのコミュニケーションを通して、自分を見直す良い機会となった。」「ミャンマーのインターンシップ研修は私の一生の宝です。参加してよかったです。この経験を無駄にせず、このインターンシップに関わってくださったたくさんの方への感謝を忘れず、教育についての学習により励んでいきたいと思います。」等のコメントがありました。卒業後の進路や、曖昧だった留学に対する意識等が明確になった参加者もあり、本研修は学生にとって短期間でしたが忘れられない体験になりました。



パゴダを訪問した参加学生



模擬授業(福笑い)



模擬授業(習字)

柔道部男子学生が『東京国際視覚障害者柔道選手権大会 男子66kg級』で初優勝

本学柔道部の瀬戸勇次郎さん(特別支援教育教員養成課程中等教育部2年生)は、2019年3月10日(日)に講道館で開催された『東京国際視覚障害者柔道選手権大会 男子66kg級』に出場し、見事初優勝を果たしました。国際大会初出場の瀬戸さんは、準決勝戦までの2試合を一本勝ちし、圧倒的な試合運びで順調に勝ち進み、決勝戦では2016年リオデジャネイロパラリンピック日本代表選手の藤

本聡選手と延長戦の末、返し技で勝利を収めました。

瀬戸さんは、「今回の優勝は大きな自信になりましたが、新たな課題も見つかりました。次の試合に向けてこれまで以上に稽古に励んでいきたいです。」と抱負を述べました。



表彰式の様子

九州教員研修支援ネットワークの発足

平成31年3月20日、九州・沖縄の教員養成機能のある大学と教育委員会とが連携して、小学校、中学校、高等学校などの教員研修について情報提供や共有を行い、教員研修の効果的・効率的な実施に向けて研修プログラムなどを開発する「九州教員研修支援ネットワーク」(以下、ネットワークという)を立ち上げました。

ネットワークは、平成28年度に福岡教育大学が中心となって九州地区の教育委員会、福岡県内の国立大学及び私立大学が教員育成指標のモデルを共同で開発した「九州地区教員育成指標研究協議会」や、平成29～30年度に中堅教諭等資質向上研修のモデル化に

向けて共同研究を行った「九州地区教員養成・研修研究協議会」の実績を踏まえ、その設置が構想されました。文部科学省の機能強化経費等を受け、これまでの取り組みを継続、発展させ、恒常的に取り組む体制を整備することとなりました。ネットワークには、19の国公立大学と九州・沖縄の各県、政令市等12の教育委員会が参加し、事務局は福岡教育大学教員研修支援センターが担います。

「九州教員研修支援ネットワーク」及び事務局機能を担う「教員研修支援センター」
(左より、櫻井学長、川添理事)



全学一斉の防火・防災訓練を実施しました

本学赤間キャンパスでは、令和元年5月28日(火)に、震度6強の地震が発生したことを想定した全学一斉の防火・防災訓練を実施しました。

本訓練は9回目を迎え、今年も多くの学生、教職員等が参加しました。参加者は地震発生のアナウンスと同時に身の安全の確保、避難場所への避難や避難完了の報告、初期消火

訓練、安否確認メールの返信など、一連の訓練に緊張感を持って臨みました。

訓練終了後、宗像地区消防本部から「近年、大雨や地震など災害が身近なものになっている。災害が発生したときは、まず、自分の身は自分で守るという自覚を持ってほしい。」との講評をいただきました。

また、櫻井学長から「教員になったとき、皆さ

んの判断がほかの人の命を左右する場面もあり得る。自分の身は自分で守るだけでなく、他人の命も守れるよう、判断力を養うとともに、今日の訓練での経験を学校現場で活かしてほしい。」との総括が述べられました。

本学では、今後も毎年訓練を実施し、防災意識の向上に取り組んでいきます。



避難場所へ避難した学生と教職員



総括する櫻井学長

タンザニアで野球ボランティア (JICA大学連携事業)

2017年8月に締結した独立行政法人国際協力機構(以下、JICA)との覚書に従い、本学学生8名が、野球ボランティアとしてタンザニア連合共和国に4週間派遣されました。

2019年2月21日に福岡を出発した彼らは、タンザニアスポーツ評議会及びタンザニア野球ソフトボール連盟の要請のもと、現地滞在中

のJICAシニアボランティアや現場の先生方と共に、小学校や中等学校で野球普及活動及び野球指導を行いました。

昨年に続き2回目の派遣ということで、現地では野球を経験した子供が増加してきており、本来の野球に近い野球ゲームも実施することができました。また、子ども達の積極性や人懐

こさのおかげで、本学の学生達ものびのびと活動することができました。

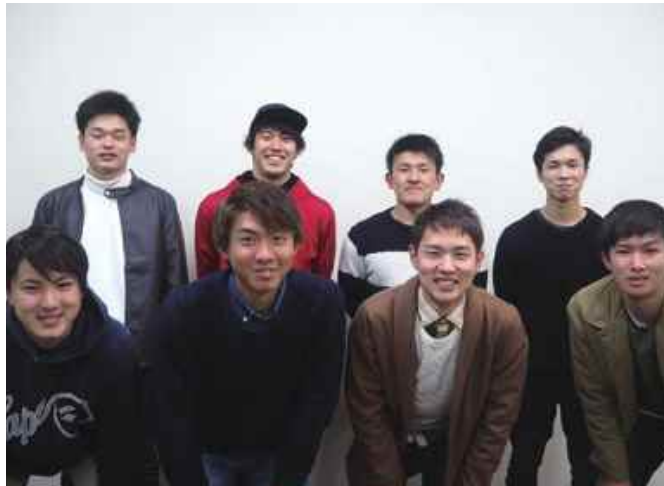
彼らが、卒業後この体験を活かし、社会に還元することで、さらに自分の視野を広げて活躍してくれることに期待しています。



野球指導の様子



野球ゲームの様子



派遣学生(8名)

平成30年度福岡教育大学いじめ防止研修会の開催

平成31年3月2日(土)、福岡教育大学アカデミックホールにおいて平成30年度福岡教育大学いじめ防止研修会を開催しました。(参加者数:138名)

本研修会では、日本生徒指導学会会長・鳴門教育大学特任教授の森田洋司先生より、「いじめ防止対策の在り方を改めて考える～総務省の勧告を受けて～」について、大変貴重な講演をいただきました。

引き続き大坪靖直教授より、「いじめ根絶を目指すアクションプログラム」における本学の

取組についての事業報告、附属福岡中学校の姫島和久教諭、西村紀彦教諭、久永美穂教諭より、現行の教科で扱ういじめ予防に資する一連の授業案、「いじめを生まない授業づくり」について実践発表を行いました。

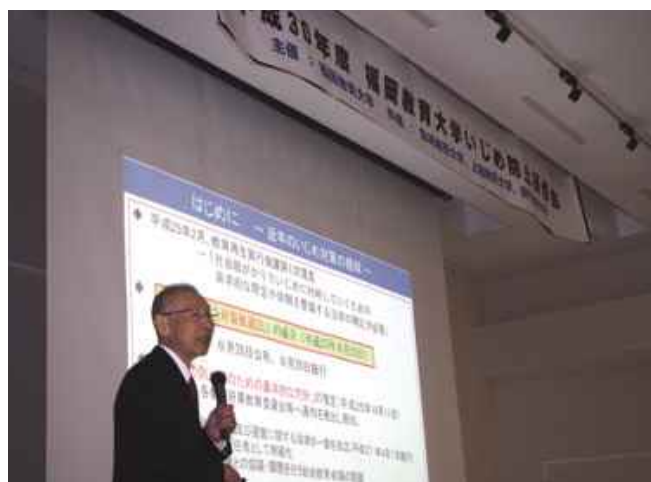
最後に大坪教授と附属福岡中学校の姫島教諭、西村教諭、久永教諭の質疑応答では、「いじめを生まない授業づくりについて」フロアを巻き込んだ議論がなされました。

この研修会では、BPプロジェクト関係者、福岡県内、福岡県外教育関係者、他大学学

生、本学教職員、本学院生及び本学学生など138名が参加し、大変有意義な研修会となりました。

本日いただいた意見を参考にして、今後もBPプロジェクト※を継続して参ります。

※我が国のいじめ問題の根本的な克服に寄与するため、平成27年度に宮城、上越、鳴門、福岡の4教育大学の協働参加でスタートしました「いじめ防止支援プロジェクト(BPプロジェクト(Bullying Prevention:いじめ防止))」は、関係機関等の協力を得て、教育委員会研修担当者及び学校教員等を対象に講演や研修会、シンポジウムなどを行っています。



講演 森田洋司日本生徒指導学会会長・鳴門教育大学特任教授



実践発表 姫島和久、西村紀彦、久永美穂 附属福岡中学校教諭

卓球部

初等教育教員養成課程 3 年

た が し ら と も み
田頭 倫実

私たち『卓球部』には、男女20名(現役10名)が所属しています。週二回、火曜日と金曜日の18時から21時まで、学内の小体育館で練習しています。

主に、九州の大学が集まる大会や宗像市の市民大会などに参加していますが、年に一度、全国の教育大学が集まる「全国教育(学芸)大学卓球選手権大会」に出場するため、他県へ遠征に行っています。昨年度開催された同大会では、男子・個人・40代の部でOBが優勝、女子・現役・団体の部で第3位入賞という結果を残しています。【写真:左下】また、他の教



育大生とたくさん交流できるため、部員一同、毎年楽しく参加しています。練習や大会の他に、部員同士の仲を深めるため、海でのBBQやスポーツ大会、小旅行などのイベントを開催しています。

先輩が引退し、部員数が少なくなりましたが、初心者・経験者関係なく、全員で仲良く活動しています。大会でより良い戦績を残せるように、これからも楽しく、真面目に練習に励みたいと思っています。



サークル紹介

C I R C L E I N F O R M A T I O N



Seasoning(シーズニング)

中等教育教員養成課程 家庭専攻 3 年

た る も と み わ
樽本 実和

私たち『Seasoning』は、料理サークルです。月二回、家政教棟の調理学実験実習室で活動しています。

料理サークルと聞くと、本格的な難しい料理を作るのではないと思われるかもしれませんが、私たちは、“家でも作ることにはできるけど、一人で作るにはちょっと手間のかかる、栄養バランスの良い料理”を作ることになっています。

例えば、4月には、ロールキャベツとゴボウサラダを作りました。旬である春キャベツや収穫期を迎えたゴボウを使った料理です。一人で作ると、少し面倒に感じますが、皆で作ると、ロールキャベツの大きさや形の微妙な違いに気づき、楽しく作ることができます。

旬の野菜について、インターネットや本で調べ、料理にたくさん使うこと



で、普段あまり食べない旬の野菜や季節の料理を食べる機会を作っています。

大学生は一人暮らしの人が多く、節約のために食費を削る等、食事をおろそかにしがちです。また、食事で栄養をうまく摂ることができないことがあります。そこで、私たちは、皆で楽しく料理をして、皆で食べることによって、食の楽しさを伝えていけたらいいなと思っています。





教師冥利に尽きる

今年の春も、「先生！卒業したよ！」と中学校を卒業した子どもたちが、小学校を訪ねてくれました。6年生で担任した子どもたちです。今でこそこのように慕ってきてくれる子ども達ですが、もちろん初めからうまくいったわけではありません。とことん話をするうちに、打ち解け合い、わかり合っていました。卒業式の時こっそりいいに来てくれました。「1年間とても楽しかった！先生のクラスで良かったです。」と。教師冥利に尽きるって、まさにこの瞬間です。教師はとても責任ある仕事だけれども、尽くせば尽くすだけ必ず子どもたちは返してくれます。なんて魅力的な仕事だろうと今でも思います。



音楽と私

学生時代には、音楽科の先生方に音楽の楽しさや表現することの喜びを教えていただきました。「このことを子ども達と共有したい。」そう思いながらつくった授業の中で、楽しそうに自分たちの音楽をつくっている姿、体一杯で表現している姿、そして、教室に戻りながらその時に学習した歌を口ずさんでいる姿、これらの子ども達



の姿が見られた時、「よし、次も頑張ろう。」と思います。現在は主幹教諭になり学級担任はしていませんが、これからは、先生方にも音楽指導の素晴らしさを伝えていけたらと思っています。

このように、わたしと子ども達とをつなげたり、多くの先生方との出会いをもたらしたりしてくれる音楽。私にとってかけがえのないものです。

学生のみなさんへ

一つでいいのです。「これは誰にも負けない。」ということを見つけ、磨きをかけるための惜しまない努力をしてください。また、視野を広げるための多くの経験、そして、多くの出会いをしてください。これらは、教壇に立った時、大きな力になることでしょう。子どもたちは、個性あふれる魅力的な先生方との出会いを待っています。

志免町立志免中央小学校

おおつば

主幹教諭 **大坪 さつき** さん

小学校教員養成課程

音楽科専修

平成5年3月卒業



健康増進法改正に伴う学内全面禁煙の実施について

「望まない受動喫煙」を防止する趣旨から、「健康増進法の一部改正する法律」が平成30年7月25日に交付され、学校、病院、児童福祉施設、行政機関の庁舎等については、令和元年7月1日の法施行により、敷地内での喫煙は原則禁止することとされています。

本学としては、学内外から多数の方が利用する公共性の高い教育機関であること、将来教育現場に就職する学生が在籍することから、法改正の趣旨を踏まえ、次のとおり学内全面禁煙を実施することにしました。

学内全面禁煙へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- 1 宗像地区 令和元年7月1日から全面禁煙を実施
- 2 附属学校地区(福岡、久留米、小倉) 令和元年7月1日から全面禁煙を実施



表紙モデルの福教大生

今回の表紙は、特集『私たちの福教大キャンパスライフ!』で教員になりたいという思いを胸に、日々夢に向かって自分を磨き続けている、5名の学生に登場していただきました。今回、5名の学生から、改めて学生生活を振り返り、福岡教育大学で得られる様々な経験は、必ず教壇に立つ自分の力になると、高校生の皆さんへ次のようなメッセージをいただきました。



「福教大ではボランティア活動に力を入れており、大学で学んだことを現場で再確認したり、新しい学びを得たりできます。同じ目標を持った仲間と切磋琢磨しながら理想の教師になれるように充実した大学生活を送っています。」

「勉強・部活・遊び・アルバイト...大学での4年間というのは生涯忘れることのないものになると思います。私は一生のものになる出会い、経験、思い出をこの大学で得ることができました。ぜひ皆さんもかけがえのない4年間を福教大で作ってみてはいかがでしょうか?」

「勉強・部活・遊び!福教で充実した日々を私たちと過ごしませんか??」

「自分の目指す教師像へ向かって、様々な活動ができるのがこの福岡教育大学です。今回紹介したボランティア活動もその活動の一つです。是非、僕らと一緒に活動してみませんか?」

「いろいろな人に出会って、いろいろな考え方に触れることは、大学生活の時にしかできないことだと思います。そんな大切な人生の4年間を福教大で過ごしてみるのはいかがでしょうか?」

福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。つきましては、広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/efforts/foundation/fukkyou_foundation

「福岡教育大学基金」についてのお問い合わせは、福岡教育大学財務企画課までご連絡をお願いします。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課 TEL:0940-35-1210 FAX:0940-35-1701 E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

後援会

令和元年度保護者説明会のご報告

今年度の県外での保護者説明会は、6月1日の宮崎から始まり、佐賀、山口、鹿児島
の4ヶ所で行いました。一部では大学から就職・教職教育院についての説明があり質疑応
答の時間を取りました。二部では学年毎に分かれて懇談会をしました。懇談会では保護
者同士の情報交換や要望などを参加者で共有することが出来、とても好評でした。

来年は、大分、熊本、長崎、広島で開催の予定です。ぜひご参加ください。開催日時は
ホームページでお知らせします。

福岡教育大学後援会 事務局

TEL・FAX:0940-33-8070

E-Mail:kouenkai@eos.ocn.ne.jp



同窓会城山会

第44回定期総会報告

福岡教育大学同窓会城山会
は先輩同窓会と統合して、今年
で30年目を迎えます。福岡県内
に26支会・高等学校支会・大
学支会を置き、各県には山口、
佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎に
支部を設置しています。



4月29日(月)には福岡市内で各県からの参加者も含め160人余
りの代表会員が集い、盛大に総会と懇親会を行いました。

学生のみなさんも是非、地元の先輩方と触れ合う機会を持たれ、
将来の夢を語り合われることをお勧めします。

同窓会は生涯の仲間です

新卒・若手会員情報交換会 10月26日(土) 10時開会 アカデミックホール於
先輩方の実践発表があります。学生の皆さんのご参加お待ちしております！

福岡教育大学同窓会 城山会事務局

TEL・FAX:0940-33-2211

E-Mail:jouyamakai@able.ocn.ne.jp

健康科学センター

MESSAGE No.117 2019 春号

今回の内容は、「そだねー」
「とても無理…そんな立場や仕
事は成長のチャンス」「様々な
ストレスとそれをコントロールで
きるために」「こころと身体は繋
がっている～呼吸法の紹介
～」「自分への魔法の言葉」
「飲酒と喫煙」「よく噛んで食べ
ましょう」など盛りだくさんです。
また表紙は、播本瑞季さん(中
等美術)のデザインです。是非
手にとってご覧ください。



健康科学センターHP

<http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>

女子バスケット清掃活動

私たち福岡教育大学女子バスケットボール部は、2011年3月11日の東日本大震災
を機に何か私たちにできることはないかと考え、月に1回の清掃活動を始めました。

毎月月末にチーム全員で、学校内外に落ちているゴミを収集しています。

この活動を続けてきて、活動の時のみに限ら
ず、日常生活の中でもゴミを見つけた時には自
然と拾うという姿勢が身についており、一人間
としての成長にもつながっていると思います。

小さなことかもしれませんが、私たちの活動
を多くの方に知っていただき、皆さんが過ごし
やすく気持ちのいい環境になることを願ってい
ます。



国語以外は苦手な子が小説家になるかもしれない。
ノートにらくがきしてばかりの子が画家になるかもしれない。
チョウやバッタにしか興味のない子が100年後の絶滅種を減らすかもしれない。
ケガの多いやんちゃな子が多くの命を救う医者になるかもしれない。
インターネットばかりしている子が平和を創るプログラムを発明するかもしれない。

その可能性を広げる。

教師は、
世界を変える仕事だ。

あすの教育に、夢を。



国立大学法人
福岡教育大学
University of Teacher Education Fukuoka

www.fukuoka-edu.ac.jp

Joyama 通信 vol.45

福岡教育大学広報誌第45号 2019年7月18日
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1
TEL.0940-35-1205 FAX.0940-35-1259
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp
ホームページ: <https://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。